opusdei.org

## 聖ホセマリアの生涯 - 2

子どもの頃の十字架:妹たち三人が亡くなって、家族は故郷のバルバストロを離れログローニョに移住しました。

## 2020/07/20

ホセマリアが8歳のときから3年の間に、3人の妹が下から順番に亡くなりました。悲しみの中にあった家族をさらに不幸が襲います。1914年の秋、父ホセ氏の会社が破産したのです。それは当時の不況の影響

もありますが、会社の同僚の不正行 為が直接の原因でした。この事態に 対してホセ氏がとった態度は立派で した。まず責任者を赦しました。家 族内では恨みが生まれないようにこ の話題を避けます。そして会社の財 産では債権者に負債を支払うことが できなかったので、自分の財産で もってそれを返済する義務があるか どうかを司祭に相談しました。その 義務はないとことでしたが、自己の 信念に基づいて負債を全額支払うた めに己の財産を手放したのです。こ うして裕福であった家庭は、一挙に 一文無しになってしまいました。

貧しくなると家族を取り巻く人々の 態度も変わっていきました。特に母 の親族は、ホセ氏の「理想主義を非 難しました。母の兄は「あいつは愚 かだ。何一つ不足ない生活を続ける ことができたのに、その反対に最低 の暮らしをするようになった」と 言っていました。 しかし、家族はこの家長のとった高 貴な行動を誇らしく思いました。後 年ホセマリアはこう父を誉めていて す。「私は父を心の底から愛していて ます。父は天国のとても高いとさして にいると思す。なぜならない 生活の苦しさと屈辱を真正面から生 け入れ、堂々とキリスト 方を貫いたからです」。

親族は貧しくなったエスクリバー家から距離を置くようになりました。また不正を働いた人たちと同じ町に暮らし続けることも難しいことでした。そこで、一家は住み慣れたバルバストロを離れて、父の友人の誘いを頼ってログローニョという町に引っ越しました。

ホセマリアは短期間に矢継ぎ早に起 こった不幸に深く傷つきました。こ のころは以前のように父親に心を開 くことをしなくなり、「なぜ善良な 人が苦しみ、悪い人たちが幸福そう に暮らすのか」という問題を深く考えたようです。また持ち前の強い性格から怒りが爆発することもありました。神はこのような不幸によって彼を鍛えて行かれたのです。

1915年9月、ホセマリア一家は故郷のバルバストロを離れ口グロワインで有名なりました。この首都ではなりまれて動くなりませなりません。として働くことになりませんの精神がしみ通っていませんの精神がしみ通っていました。 (文は社交界に出入りし、母は姉ととはなりました。 に家事に専念しました。

この貧しさに雄々しく立ち向かう両親の姿が、思春期に入ったホセマリアを苦しめました。なぜ神は正しい人を苦しませるのかが彼の頭を悩まし続け、父親との打ち明け話もしなくなりました。当時、二枚の日本の

絵に慰められたそうです。一ついたそうでれ、高慢な人」と題は「いまされ、そのをしたとりなり、これではないです。とがないでするなどです。というなどはないではないがないができないがないができないができないができないができたが、たりではないができないがでいるがといいができたが、と似るとはでいるがという。ではないでしょう。

ホセマリアは公立学校に転入し、勉強にも精を出します。その人の友達を出しまって、多くの友達を作っていきました。両親のお静と、再び父に心を開くようが進いとがいる。息子は建築家になりた。息子は建築家になりた。息子は建築家になりた。息子は建築家になりた。まずが好きで、人づきあいも上手で

しかし、神は彼にまったく別の道を 用意していました。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-2/ (2025/11/11)